

不確実な未来社会を生き抜くために 変革を恐れぬ新たな若者の育成に挑む

西武学園文理中学・高等学校は、埼玉県狭山市の広大で自然豊かなキャンパスで、「異なる価値観や文化をもった人々と協働しながら、新しい価値を創造する力」=グローバル力の育成に取り組んでいます。今春から中学・高校両校の校長に柴田誠先生が就任、積極的に教育改革を進めている同校。特に変革が著しいのがグローバル教育。同校のめざす教育について、柴田校長と安田教育研究所代表の安田理氏に話し合っていました。



西武学園文理中学・高等学校
校長 柴田 誠 先生

1980年、数学科教員として入都。都立国分寺高等学校などにて20年間教科指導の実践を重ねた後、長期社会体験研修生として労働経済局に派遣。生徒による授業評価制度の導入、都立八王子東高等学校・都立大泉高等学校附属中学校の進学指導力再建、高大接続改革の推進などに尽力。2019年西武学園文理高等学校校長に就任。2020年埼玉県私立中学高等学校協会進学指導研究会会長に就任。2021年度より中学・高校両校の校長を兼務。



安田教育研究所
代表 安田 理 氏

東京都出身。早稲田大学卒業後、大手出版社で雑誌編集長を務めた後、教育情報プロジェクトを主宰、幅広く教育に関する調査・分析を行う。教育情報編集部長を最後に同社を退社し、2002年安田教育研究所を設立。講演・執筆・情報発信、セミナーの開催、コンサルタントなど幅広く活躍中。著書に『中学受験 わが子をつぶす親、伸ばす親』(NHK出版)他がある。

高校での改革推進と そこにつながる中学の学び

安田 柴田先生は積極的に改革に取り組まれています。今、なぜ教育改革が必要なのでしょう。

柴田 グローバル化やAIの技術革新が進むなか、これからの時代を生きる若者たちは、今までになかった新たな価値観を取捨選択しながら生きていかなければなりません。そんな不透明な時代に必要とされる力は、専門的な知識や技能だけでなく、さまざまな社会現象を幅広い視野でとらえ、バランスよく判断し対応していく力です。

開校40年を機に、西武文理は育てた生徒像を「日本人としてのアイデンティティを大切にしながら、グローバルな視野を持ち、自ら課題を発見し、多様な仲間と協働しながら解決・発信できるトップエリート」と定めました。2021年度が高校の改革元年です。

安田 高校での大きな変化が、中学からの内部進学生(内進生)と高校からの入学生(高入生)を、HRや授業のなかで一緒に活動させるようにしたことでしょう。それまで学んできたことが大きく異なるのに混ぜるの、正直驚きました。

柴田 確かに乱暴だと言われましたが、教育でなく、2021年度から中学ではグローバルクラスとグローバル選抜クラスになりまして、その意図はどこにあるのですか。

英語力の向上だけではなく 西武文理のめざす グローバル教育とは？

安田 大きく変わったのがグローバル教育ですね。2021年度から中学ではグローバルクラスとグローバル選抜ク

ラスになりましたが、その意図はどこにあるのですか。

柴田 本校は開校以来、日本の文化を大事にしながらかつて外国の文化を肌で感じる経験を多く積ませ、価値観の違いや考え方を乗り越える力をつけることをめざしてきました。中学校入学後に全員がパスポートを持ちますし、国籍や文化の異なる生徒も多く在籍しており、異文化や多様性へのハードルも低い。また、希望制のセブ島語学研修に60〜70%の生徒が参加しています。そうしたニーズがあるのなら、それに

応える教育をさらに充実させようと考え、すべてのクラスにグローバルを意図したカリキュラムを導入しました。

ところで、改めて「グローバルとは何か」を考えたとき、英語というツールを使いこなすスキルを磨くだけがグローバルではないことを痛感しました。そこで「授業」「GLOBAL COMPETENCE PROGRAM(GCP)」「留学や研修などの行事」「検定試験」の4つを核として据えました。

安田 それぞれに興味深い取り組みがありますね。定期考査では英語をLR(聴く・読む)とLW(聴く・書く)の2科目制にされています。オンライン英会話、オンライン洋書多読も実施されています。中2生希望者対象の21日間のセブ島語学研修(2021年度は通学型5日間+宿泊型5日間の国内研修「グローバル・チャレンジ・プロジェクト」に代替)もあります。さらに、GTECなどの資格試験にも力を入れ、英検®では中学卒業時に準2級以上取得率100%の目標設定(現在72%)など、拝見

していただくと一杯になりました。

柴田 その通りだと思います(笑)。ただ、今はやれることはすべて実践してみよう。また「コロナ禍のなか、国内活動でどれだけグローバル化が図れるのか」に向けて、計画を立てているところでもあります。クラッシュ&ビルドを繰り返すなかでトータルな視点から内容を整理整頓し、西武文理の教育目標の実現に取り組んでいる途中だとご理解ください。

オールイングリッシュで 6つの「コンピテンス」の力を育む

安田 特に興味深いのが2021年度から始まったGCPです。「今は学校の中だけで教育が完結する時代ではない。外部にある有用な資源を学内に取り込み、活用すべきだ」というのが私の持論ですが、西武文理では埼玉県で初

めてGCPを導入されました。このプログラムについて教えてください。

柴田 GCPはグローバル社会で活躍する「逞しい自由人」の育成をめざして作られたプログラムです。「コミュニケーション手段としての実用的な語学力」「異文化を理解する幅広い知識・教養」「多角的な視野に基づいた高度な思考力」「相手の考えを受け入れ相互に伝え合う力」「ホスピタリティの精神」「世界をリードするグローバルな行動力」の6つのコンピ

テンスを習得するのが目的です。オンラインドリルや、年間約30時間にわたってディベートやプレゼンテーション、ディスカッション、異文化理解問題解決などに取り組みます。授業を担当するのはプログラムを運営する会社から派遣された外国人教師1名と、本校の日本人教師+各学年に1名ずつ在籍しているALT(外国語指導助手)の3人体制という恵まれた環境での授業になっています。

導入の決め手は、学年に合わせてプログラムがよく練られていること、そして担当する外国人教師の指導力が高いことでした。まだ始まったばかりですが、生徒も楽しんで授業を受けており、英会話スキルの高い小学生からの内進生が、中学校からの入学生に教える姿もよく見られます。これから半年、1年と続けば、生徒一人ひとりに優れたスキルが身につくと手ごたえを感じています。

安田 掲げられている6つのコンピテンスは、英語の枠にとらわれない内容ですね。

柴田 その通りです。これらのスキルは、国内でも海外でも、これからいろいろなか場面で役立つスキルだと思います。本校では英語の時間を使っていますが、

西武文理にご期待ください。

安田 これからの学校選びにおいては、進学実績は必要条件として、「なぜこの学校を選ぶのか」「なぜ」が重要になると思います。その決め手になるのは、子どもが将来社会に出たときに、自分の力で人生を切り開いていく、いわば「胆力」を身につけられるかではないでしょうか。西武文理は、それを実現できる学校になるために変わろうとしているのだと実感しました。改革の先にある西武文理ならではの教育に期待しています。



フィリピン・セブ島で現地の先生とマンツーマンレッスン



GLOBAL COMPETENCE PROGRAM(GCP)の授業の様子

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。 ※「GTEC」は、株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。

世界を見つめ、人を想い、未来を創る。
西武学園文理中学・高等学校

学校説明会(予約制)
第2回 7/18(日) 9:30~11:30 第4回 9/18(土) 9:30~11:30 第6回 11/ 3(水・祝) 9:30~11:30
第3回 8/22(日) 9:30~11:30 第5回 10/16(土) 9:30~11:30 第7回 12/11(土) 9:30~11:30

〒350-1336 埼玉県狭山市柏原新田311-1 TEL:04-2954-4080
https://www.bunri-s.ed.jp/

